

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社ウェル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	やま風
所在地	仙台市若林区伊在1丁目10-10		
自己評価作成日	令和元年 12月 20 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2年 1 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なんてん伊在荘では、地域に根差した安心安全で居心地のいい場所を目指し、季節感のある毎月の行事や近所の保育園・中学校・ボランティアとの定期的な交流、毎年大勢の地域住民のご支援を頂きながら行なうなんてん伊在荘祭りなどを通して利用者様が「ここに居てよかった」と思えるような具体性のある取り組みを普段から行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度100歳になる方2名を含め90歳以上の方が10名おり、元気で楽しく暮らしている。近隣保育園は「優しさと思いやりの心を育む」を狙としてホームとの関わりを持っている。園児から「なんてんのばあちゃん」と慕われている。地域子供会と交流があり、中学生のプラスバンドや職場体験の来訪、高校生の実習の受け入れ等地域との関係は良好である。法人は宮城福祉オンブズネット「エール」の勉強会を開催したり、「あしたのチーム」を活用して人材育成や働き方改革に取り組んでいる。入居者と職員の信頼関係が厚く、法人理念の「利用者本位」を活かした、寄り添う介護を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘** )「ユニット名 **やま風** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに常に利用者本位のサービスを提供するための理念を職員同士の話し合いを通して構築し、ユニットの見えるところに掲示し、共有している。	法人理念「利用者本位」、ホーム理念「居心地のいい場所」を基に、各ユニットで特徴を生かした理念を作っている。年度始め(11月)に見直しをしている。入居者の思いを汲み取り、笑顔が見えるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会の廃品回収の協力や保育園児や中学生ボランティアと定期的に交流しており、また事業所の行事にも参加して頂いている。	町内会総会や防災訓練等地域行事に参加している。ホーム夏祭りや毎週傾聴ボランティアの来訪等、地域との関係は良好である。保育園と年間予定を組み交流し、園児から「なんてんのばあちゃん」と慕われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験や高校生の職場実習を受け入れたり、ボランティア等を通して認知症を理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して地域の方やご家族の方々と情報交換をしたり、頂いたご意見を行事や地域との交流などに活かしている。	「伊在荘サロン」と称し、家族へ開催のはがきを出し参加を呼び掛け、毎回10名位の参加がある。地域包括職員は毎回出席している。提案を受け、9月開催時より事故・ヒヤリハット検証の報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、地域のケア会議等に参加し、情報交換を行っている。	介護保険更新、区分変更、生活保護関連の手続き等で、担当職員に相談、助言を得ている。文化センターで開催の「認知症グループワーク」や「地域ケア会議」等に参加し情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや外部研修に参加し、それをもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で確認している。	身体拘束廃止委員会を設置し、職員は2ヵ月毎の内部勉強会でレポートを提出している。法人全体の勉強会でも、身体拘束の理解を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。転倒防止の為、センサーを使用している方がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルや外部研修に参加し、それをもとに勉強会の機会を設けている。また、現場でも注意をお互いに呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できるように配慮し、事業所全体で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前にご家族と話し合いをしたり、契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し、ご家族や地域から意見を頂いたり、ご家族が面会にいらしたときにも意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	家族から「押し入れが汚れていた」の意見で掃除の仕方を再検討した。「オムツの料金」はトイレ誘導を増やし、パッドの見直しで対応した結果1/3に削減された。同様に他の入居者の見直しを図った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ、意見を出しやすい環境づくりを行っている。	毎月のユニット会議で出た意見や要望等を、リーダー会議や全体会議で再検討している。浮腫に効くお茶や足浴マッサージ、漬物作り等の提案があった。思いやり、安心・きれい、楽しむの3つの委員会があり活動している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価システムを活用し、個人面談を行い目標設定し定期的に振り返り評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえるように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、会社内でも他事業所合同での研修会や交流会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族に直接話を聞いたりしながら入居後の関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や面会時にご本人やご家族に話を聞いたりしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を伺った情報をもとにケアプランを作成しご本人に合ったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることをお願いし生きがいへとつなげている。ユニット内でもそれぞれ得意なことを役割として共に暮らしている実感を感じていただけるように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には本人の普段の様子を報告し、ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。また、毎月本人の様子を手紙で郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの家具や洋服を用意して頂き安心できる環境を作っている。また、ご家族に確認しながら友人や知人との面会をしていただいている。	友達、知人、親戚等の面会は多くあり、居室でゆっくり話ができるよう配慮している。家族の協力を得て、実家に帰る、買い物、食事に行く等これまで大切にしていた人や場所等の関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性などを理解し席替えをしたり、ユニット内にある小スペースを使ってコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はそのようなケースはあまり見られないが、他施設へ移動されたときは時々面会にいき、様子を確認していた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合はご家族に聞いている。	衣料品店で好みの服を試着する、着替えは本人が選ぶ、訪問理容師に髪型を要求する等本人の視線に立った支援をしている。意思疎通が困難な方は、顔の表情やソワソワする等動作から思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人や家族に聞き、生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の変化については詳しく記録し、ミーティング等でも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティング時にモニタリングを行い、スタッフから意見をもらい、またご家族にも連絡し意見をもらってケアプランに反映させている。	担当職員が月1回モニタリングをし、3ヵ月毎にカンファレンスで見直し、6ヵ月で計画の作成をしている。なんてん独自の「必要な介護と留意事項」「病気とケアの留意事項」を同時に作成している。家族に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアプランを意識した記録を記入し、特に変化があるときは詳しく記入し毎月のユニットミーティングの際に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方の協力を頂き歌などを一緒に歌っていただいたり、保育園との交流など充実した生活ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの受け入れ、保育園との交流、中学校の職場体験の受け入れ、子供会の廃品回収の協力を行い、逆に伊在荘のお祭りの際にはご協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院等ご家族や本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	殆んどの方が往診医を受診している。眼科等専門医には家族同伴だが、行けない場合は職員が対応している。受診結果は個人記録に記載し共有している。歯科医や歯科衛生士の定期的な口腔ケアの来訪がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪看を利用し、日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリを病院へ提出し、入院中は時々病院へお見舞いに行き状況を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。往診時契約時は極力同席し、改めてご家族と病院側で契約し同意を得ている。	「看取りに関する指針と同意書」を入居時に本人、家族に説明している。状態の変化に応じてホームで出来る事出来ない事等を医師と関係者で話し合い、方針の統一を図っている。家族の多くはホームでの看取りを希望している。職員は看取りの勉強会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に参加したり、急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、その際に地域の方々やご家族にも参加していただき災害時のご協力を伝えている。	年2回避難訓練を実施している。夜間に訓練を実施した時は家族の参加があった。2階の入居者はベランダに避難し、6分以内で到達する消防車を待つ。昨年10月の大雨洪水警報レベル4の時は2階に全員避難した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声がけや対応に配慮し、人生の先輩として尊敬し対応している。	フレンドリーな関係を好む方、上下関係を重視する方等一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。馴れ馴れしい言葉使いには十分気を付けている。失敗のあった方には「お部屋に行きましょう」と声をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の選択しやすい言葉を選び時にはジェスチャーを交えながら声がけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたいことを探りできるだけ希望に添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら選んでいただき、難しい方には選びやすい方法で選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に漬物やお菓子づくりをしたり、野菜の皮むきなどできることはしている。月に数回フリーメニューを作り利用者の好きなものを提供している。	月2～3回「フリーメニュー」の日を設け、入居者の希望を聞き、一緒に買物に行く。パンやカップラーメンに人気がある。誕生日は寿司の出前、魚屋の弁当が喜ばれる。干し柿、漬物、水羊羹等作って食べる楽しみがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できる方には声がけて自立支援を促している。また、感染症防止のためうがい薬でのうがいもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やおむつの交換を行っている。	排泄チェック表を基に、定時の声かけや表情、落ち着きがなくなる等のサインを見逃さず誘導して、トイレでの排泄を行っている。夜間のみオムツ使用やポータブルトイレ使用の方がいる等個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らない排便を促すためにオリゴ糖や食物などで排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や状態により任意に変更し利用者の気持ちによって変更している。	週2～3回の入浴を基本としている。拒否する人はいない。水・金曜日以外の日に入浴日と自分で決めている方がいる。職員と1対1になり話をしながら、安心して楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々利用者の要望や体調に合わせて個室で休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見回り等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の処方薬の働きや注意事項を把握し、排便関係は状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性に合わせて洗濯、食器拭き、掃除など無理のない範囲でお願いすることで意欲につなげます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な外出支援についてはご家族と相談の上外出していただき、全体では季節が感じられるように野外の企画を考えて提供している。また、近所の買い物や公園への散歩なども実施している。	初詣や花見、七夕祭り、紅葉と季節を感じる外出は年間行事として出かけている。秋保の里センターや足湯に行き蕎麦を食べるのを楽しみにしている。日常的にはホーム周辺の散歩、買い物、ベランダでお茶のみや日光浴を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせ一緒に買い物に行ったりスタッフが代わりに購入してくる場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に応じた飾りつけや、利用者の作品などをユニット内に展示し誰もが楽しめる空間を作っている。また、安全に利用できるように家具の配置を考えている。	リビングは明るくゆったりとし、空気に澱みはなく、温湿度は適切である。壁に習字の作品、保育園児の吊り飾り、中学生からの手紙が飾られ温かい雰囲気である。小正月のだんご刺しが季節を感じる。入居者は各ユニットを行き来し、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などところどころに椅子やソファを置いてくつろげる空間を作り利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真を飾り、居心地の良い場所を作っている。	入口に職員と作った表札が掛けてある。使い慣れたタンス、椅子、テーブル等の家具が使い易く配置されてある。家族の写真、自作の習字等を飾り、テレビ、本やぬいぐるみを置き居心地良い自分の部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示をわかりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社ウェル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	せせらぎ
所在地	仙台市若林区伊在1丁目10-10		
自己評価作成日	令和元年 12月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 1 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なんてん伊在荘では、地域に根差した安心安全で居心地のいい場所を目指し、季節感のある毎月の行事や近所の保育園・中学校・ボランティアとの定期的な交流、毎年大勢の地域住民のご支援を頂きながら行なうなんてん伊在荘祭りなどを通して利用者様が「ここに居てよかった」と思えるような具体性のある取り組みを普段から行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度100歳になる方2名を含め90歳以上の方が10名おり、元気で楽しく暮らしている。近隣保育園は「優しさと思いやりの心を育む」を狙としてホームとの関わりを持っている。園児から「なんてんのばあちゃん」と慕われている。地域子供会と交流があり、中学生のプラスバンドや職場体験の来訪、高校生の実習の受け入れ等地域との関係は良好である。法人は宮城福祉オンブズネット「エール」の勉強会を開催したり、「あしたのチーム」を活用して人材育成や働き方改革に取り組んでいる。入居者と職員の信頼関係が厚く、法人理念の「利用者本位」を活かした、寄り添う介護を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘** )「ユニット名 **せせらぎ** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに常に利用者本位のサービスを提供するための理念を職員同士の話し合いを通して構築し、ユニットの見えるところに掲示し、共有している。	法人理念「利用者本位」、ホーム理念「居心地のいい場所」を基に、各ユニットで特徴を生かした理念を作っている。年度始め(11月)に見直しをしている。入居者の思いを汲み取り、笑顔が見えるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会の廃品回収の協力や保育園児や中学生ボランティアと定期的に交流しており、また事業所の行事にも参加して頂いている。	町内会総会や防災訓練等地域行事に参加している。ホーム夏祭りや毎週傾聴ボランティアの来訪等、地域との関係は良好である。保育園と年間予定を組み交流し、園児から「なんてんのばあちゃん」と慕われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験や高校生の職場実習を受け入れたり、ボランティア等を通して認知症を理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して地域の方やご家族の方々と情報交換をしたり、頂いたご意見を行事や地域との交流などに活かしている。	「伊在荘サロン」と称し、家族へ開催のはがきを出し参加を呼び掛け、毎回10名位の参加がある。地域包括職員は毎回出席している。提案を受け、9月開催時より事故・ヒヤリハット検証の報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、地域のケア会議等に参加し、情報交換を行っている。	介護保険更新、区分変更、生活保護関連の手続き等で、担当職員に相談、助言を得ている。文化センターで開催の「認知症グループワーク」や「地域ケア会議」等に参加し情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや外部研修に参加し、それをもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で確認している。	身体拘束廃止委員会を設置し、職員は2カ月毎の内部勉強会でレポートを提出している。法人全体の勉強会でも、身体拘束の理解を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。転倒防止の為、センサーを使用している方がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルや外部研修に参加し、それをもとに勉強会の機会を設けている。また、現場でも注意をお互いに呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できるように配慮し、事業所全体で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前にご家族と話し合いをしたり、契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し、ご家族や地域から意見を頂いたり、ご家族が面会にいらしたときにも意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	家族から「押し入れが汚れていた」の意見で掃除の仕方を再検討した。「オムツの料金」はトイレ誘導を増やし、パッドの見直しで対応した結果1/3に削減された。同様に他の入居者の見直しを図った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ、意見を出しやすい環境づくりを行っている。	毎月のユニット会議で出た意見や要望等を、リーダー会議や全体会議で再検討している。浮腫に効くお茶や足浴マッサージ、漬物作り等の提案があった。思いやり、安心・きれい、楽しむの3つの委員会があり活動している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価システムを活用し、個人面談を行い目標設定し定期的に振り返り評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえようように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、会社内でも他事業所合同での研修会や交流会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族に直接話を聞いたりしながら入居後の関係作りに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や面会時にご本人やご家族に話を聞いたりしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を伺った情報をもとにケアプランを作成しご本人に合ったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることをお願ひし生きがいへとつなげている。ユニット内でもそれぞれ得意なことを役割として共に暮らしている実感を感じていただけるように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には本人の普段の様子を報告し、ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。また、毎月本人の様子を手紙で郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの家具や洋服を用意して頂き安心できる環境を作っている。また、ご家族に確認しながら友人や知人との面会をしていただいている。	友達、知人、親戚等の面会は多くあり、居室でゆっくり話ができるよう配慮している。家族の協力を得て、実家に帰る、買い物、食事に行く等これまで大切にきた来た人や場所等の関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性などを理解し席替えをしたり、ユニット内にある小スペースを使ってコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はそのようなケースはあまり見られないが、他施設へ移動されたときは時々面会にいき、様子を確かめていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合はご家族に聞いている。	衣料品店で好みの服を試着する、着替えは本人が選ぶ、訪問理容師に髪型を要求する等本人の視線に立った支援をしている。意思疎通が困難な方は、顔の表情やソワソワする等動作から思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人や家族に聞き、生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の変化については詳しく記録し、ミーティング等でも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティング時にモニタリングを行い、スタッフから意見をもらい、またご家族にも連絡し意見をもらってケアプランに反映させている。	担当職員が月1回モニタリングをし、3ヵ月毎にカンファレンスで見直し、6ヵ月で計画の作成をしている。なんてん独自の「必要な介護と留意事項」「病気とケアの留意事項」を同時に作成している。家族に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアプランを意識した記録を記入し、特に変化があるときは詳しく記入し毎月のユニットミーティングの際に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方の協力を頂き歌などを一緒に歌っていただいたり、保育園との交流など充実した生活ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの受け入れ、保育園との交流、中学校の職場体験の受け入れ、子供会の廃品回収の協力を行い、逆に伊在荘のお祭り際にはご協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院等ご家族や本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	殆んどの方が往診医を受診している。眼科等専門医には家族同伴だが、行けない場合は職員が対応している。受診結果は個人記録に記載し共有している。歯科医や歯科衛生士の定期的な口腔ケアの来訪がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪看を利用し、日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリを病院へ提出し、入院中は時々病院へお見舞いに行き状況を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。往診時契約時は極力同席し、改めてご家族と病院側で契約し同意を得ている。	「看取りに関する指針と同意書」を入居時に本人、家族に説明している。状態の変化に応じてホームで出来る事出来ない事等を医師と関係者で話し合い、方針の統一を図っている。家族の多くはホームでの看取りを希望している。職員は看取りの勉強会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に参加したり、急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、その際に地域の方々やご家族にも参加していただき災害時のご協力を伝えている。	年2回避難訓練を実施している。夜間に訓練を実施した時は家族の参加があった。2階の入居者はベランダに避難し、6分以内で到達する消防車を待つ。昨年10月の大雨洪水警報レベル4の時は2階に全員避難した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声かけや対応に配慮し、人生の先輩として尊敬し対応している。	フレンドリーな関係を好む方、上下関係を重視する方等一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。馴れ馴れしい言葉使いには十分気を付けている。失敗のあった方には「お部屋に行きましょう」と声をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の選択しやすい言葉を選び時にはジェスチャーを交えながら声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたいことを探りできるだけ希望に添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら選んでいただき、難しい方には選びやすい方法で選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に漬物やお菓子づくりをしたり、野菜の皮むきなどできることはしている。月に数回フリーメニューを作り利用者の好きなものを提供している。	月2～3回「フリーメニュー」の日を設け、入居者の希望を聞き、一緒に買物に行く。パンやカップラーメンに人気がある。誕生日は寿司の出前、魚屋の弁当が喜ばれる。干し柿、漬物、水羊羹等作って食べる楽しみがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できる方には声かけて自立支援を促している。また、感染症防止のためうがい薬でのうがいもやっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やおむつの交換を行っている。	排泄子エック表を基に、定時の声かけや表情、落ち着きがなくなる等のサインを見逃さず誘導して、トイレでの排泄を行っている。夜間のみオムツ使用やポータブルトイレ使用の方がいる等個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らない排便を促すためにオリゴ糖や食物などで排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や状態により任意に変更し利用者の気持ちによって変更している。	週2～3回の入浴を基本としている。拒否する人はいない。水・金曜日以外の日は入浴日と自分で決めている方がいる。職員と1対1になり話をしながら、安心して楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々利用者の要望や体調に合わせて個室で休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見回り等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の処方薬の働きや注意事項を把握し、排便関係は状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性に合わせて洗濯、食器拭き、掃除など無理のない範囲でお願いすることで意欲につなげます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な外出支援についてはご家族と相談の上外出していただき、全体では季節が感じられるように野外の企画を考えて提供している。また、近所の買い物や公園への散歩なども実施している。	初詣や花見、七夕祭り、紅葉と季節を感じる外出は年間行事として出かけている。秋保の里センターや足湯に行き蕎麦を食べるのを楽しみにしている。日常的にはホーム周辺の散歩、買い物、ベランダでお茶のみや日光浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて一緒に買い物に行ったりスタッフが代わりに購入してくる場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に応じた飾りつけや、利用者の作品などをユニット内に展示し誰もが楽しめる空間を作っている。また、安全に利用できるように家具の配置を考えている。	リビングは明るくゆったりとし、空気に澁みはなく、温湿度は適切である。壁に習字の作品、保育園児の吊り飾り、中学生からの手紙が飾られ温かい雰囲気である。小正月のだんご刺しが季節を感じる。入居者は各ユニットを行き来し、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などところどころに椅子やソファを置いてくつろげる空間を作り利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真を飾り、居心地の良い場所を作っている。	入口に職員と作った表札が掛けてある。使い慣れたタンス、椅子、テーブル等の家具が使い易く配置されてある。家族の写真、自作の習字等を飾り、テレビ、本やぬいぐるみを置き居心地良い自分の部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示をわかりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社ウェル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	あお空
所在地	仙台市若林区伊在1丁目10-10		
自己評価作成日	令和元年 12月 20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 1 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なんてん伊在荘では、地域に根差した安心安全で居心地のいい場所を目指し、季節感のある毎月の行事や近所の保育園・中学校・ボランティアとの定期的な交流、毎年大勢の地域住民のご支援を頂きながら行なうなんてん伊在荘祭りなどを通して利用者様が「ここに居てよかった」と思えるような具体性のある取り組みを普段から行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度100歳になる方2名を含め90歳以上の方が10名おり、元気で楽しく暮らしている。近隣保育園は「優しさと思いやりの心を育む」を狙としてホームとの関わりを持っている。園児から「なんてんのばあちゃん」と慕われている。地域子供会と交流があり、中学生のプラスバンドや職場体験の来訪、高校生の実習の受け入れ等地域との関係は良好である。法人は宮城福祉オンブズネット「エール」の勉強会を開催したり、「あしたのチーム」を活用して人材育成や働き方改革に取り組んでいる。入居者と職員の信頼関係が厚く、法人理念の「利用者本位」を活かした、寄り添う介護を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘** )「ユニット名 **あお空** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに常に利用者本位のサービスを提供するための理念を職員同士の話し合いを通して構築し、ユニットの見えるところに掲示し、共有している。	法人理念「利用者本位」、ホーム理念「居心地のいい場所」を基に、各ユニットで特徴を生かした理念を作っている。年度始め(11月)に見直しをしている。入居者の思いを汲み取り、笑顔が見えるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会の廃品回収の協力や保育園児や中学生ボランティアと定期的に交流しており、また事業所の行事にも参加して頂いている。	町内会総会や防災訓練等地域行事に参加している。ホーム夏祭りや毎週傾聴ボランティアの来訪等、地域との関係は良好である。保育園と年間予定を組み交流し、園児から「なんてんのばあちゃん」と慕われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験や高校生の職場実習を受け入れたり、ボランティア等を通して認知症を理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して地域の方やご家族の方々と情報交換をしたり、頂いたご意見を行事や地域との交流などに活かしている。	「伊在荘サロン」と称し、家族へ開催のはがきを出し参加を呼び掛け、毎回10名位の参加がある。地域包括職員は毎回出席している。提案を受け、9月開催時より事故・ヒヤリハット検証の報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、地域のケア会議等に参加し、情報交換を行っている。	介護保険更新、区分変更、生活保護関連の手続き等で、担当職員に相談、助言を得ている。文化センターで開催の「認知症グループワーク」や「地域ケア会議」等に参加し情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや外部研修に参加し、それをもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で確認している。	身体拘束廃止委員会を設置し、職員は2カ月毎の内部勉強会でレポートを提出している。法人全体の勉強会でも、身体拘束の理解を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。転倒防止の為、センサーを使用している方がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルや外部研修に参加し、それをもとに勉強会の機会を設けている。また、現場でも注意をお互いに呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できるように配慮し、事業所全体で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前にご家族と話し合いをしたり、契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し、ご家族や地域から意見を頂いたり、ご家族が面会にいらしたときにも意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	家族から「押し入れが汚れていた」の意見で掃除の仕方を再検討した。「オムツの料金」はトイレ誘導を増やし、パッドの見直しで対応した結果1/3に削減された。同様に他の入居者の見直しを図った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ、意見を出しやすい環境づくりを行っている。	毎月のユニット会議で出た意見や要望等を、リーダー会議や全体会議で再検討している。浮腫に効くお茶や足浴マッサージ、漬物作り等の提案があった。思いやり、安心・きれい、楽しむの3つの委員会があり活動している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価システムを活用し、個人面談を行い目標設定し定期的に振り返り評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえようように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、会社内でも他事業所合同での研修会や交流会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族に直接話を聞いたりしながら入居後の関係作りに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や面会時にご本人やご家族に話を聞いたりしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を伺った情報をもとにケアプランを作成しご本人に合ったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることをお願いし生きがいへとつなげている。ユニット内でもそれぞれ得意なことを役割として共に暮らしている実感を感じていただけるように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には本人の普段の様子を報告し、ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。また、毎月本人の様子を手紙で郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの家具や洋服を用意して頂き安心できる環境を作っている。また、ご家族に確認しながら友人や知人との面会をしていただいている。	友達、知人、親戚等の面会は多くあり、居室でゆっくり話ができるよう配慮している。家族の協力を得て、実家に帰る、買い物、食事に行く等これまで大切にしていた人や場所等の関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性などを理解し席替えをしたり、ユニット内にある小スペースを使ってコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はそのようなケースはあまり見られないが、他施設へ移動されたときは時々面会にいき、様子を確かめていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合はご家族に聞いている。	衣料品店で好みの服を試着する、着替えは本人が選ぶ、訪問理容師に髪型を要求する等本人の視線に立った支援をしている。意思疎通が困難な方は、顔の表情やソワソワする等動作から思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人や家族に聞き、生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の変化については詳しく記録し、ミーティング等でも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティング時にモニタリングを行い、スタッフから意見をもらい、またご家族にも連絡し意見をもらってケアプランに反映させている。	担当職員が月1回モニタリングをし、3ヵ月毎にカンファレンスで見直し、6ヵ月で計画の作成をしている。なんてん独自の「必要な介護と留意事項」「病気とケアの留意事項」を同時に作成している。家族に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアプランを意識した記録を記入し、特に変化があるときは詳しく記入し毎月のユニットミーティングの際に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方の協力を頂き歌などを一緒に歌っていただいたり、保育園との交流など充実した生活ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの受け入れ、保育園との交流、中学校の職場体験の受け入れ、子供会の廃品回収の協力を行い、逆に伊在荘のお祭り際にはご協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院等ご家族や本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	殆んどの方が往診医を受診している。眼科等専門医には家族同伴だが、行けない場合は職員が対応している。受診結果は個人記録に記載し共有している。歯科医や歯科衛生士の定期的な口腔ケアの来訪がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪看を利用し、日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリを病院へ提出し、入院中は時々病院へお見舞いに行き状況を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。往診時契約時は極力同席し、改めてご家族と病院側で契約し同意を得ている。	「看取りに関する指針と同意書」を入居時に本人、家族に説明している。状態の変化に応じてホームで出来る事出来ない事等を医師と関係者で話し合い、方針の統一を図っている。家族の多くはホームでの看取りを希望している。職員は看取りの勉強会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に参加したり、急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、その際に地域の方々やご家族にも参加していただき災害時のご協力を伝えている。	年2回避難訓練を実施している。夜間に訓練を実施した時は家族の参加があった。2階の入居者はベランダに避難し、6分以内で到達する消防車を待つ。昨年10月の大雨洪水警報レベル4の時は2階に全員避難した。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声かけや対応に配慮し、人生の先輩として尊敬し対応している。	フレンドリーな関係を好む方、上下関係を重視する方等一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。馴れ馴れしい言葉使いには十分気を付けている。失敗のあった方には「お部屋に行きましょう」と声をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の選択しやすい言葉を選び時にはジェスチャーを交えながら声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたいことを探りできるだけ希望に添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら選んでいただき、難しい方には選びやすい方法で選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に漬物やお菓子づくりをしたり、野菜の皮むきなどできることはしている。月に数回フリーメニューを作り利用者の好きなものを提供している。	月2～3回「フリーメニュー」の日を設け、入居者の希望を聞き、一緒に買物に行く。パンやカップラーメンに人気がある。誕生日は寿司の出前、魚屋の弁当が喜ばれる。干し柿、漬物、水羊羹等作って食べる楽しみがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できる方には声かけて自立支援を促している。また、感染症防止のためうがい薬でのうがいもやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やおむつの交換を行っている。	排泄チェック表を基に、定時の声かけや表情、落ち着きがなくなる等のサインを見逃さず誘導して、トイレでの排泄を行っている。夜間のみオムツ使用やポータブルトイレ使用の方がいる等個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らない排便を促すためにオリゴ糖や食物などで排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や状態により任意に変更し利用者の気持ちによって変更している。	週2～3回の入浴を基本としている。拒否する人はいない。水・金曜日以外の日に入浴日と自分で決めている方がいる。職員と1対1になり話をしながら、安心して楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々利用者の要望や体調に合わせて個室で休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見回り等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の処方薬の働きや注意事項を把握し、排便関係は状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性に合わせて洗濯、食器拭き、掃除など無理のない範囲でお願いすることで意欲につなげます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な外出支援についてはご家族と相談の上外出していただき、全体では季節が感じられるように野外の企画を考えて提供している。また、近所の買い物や公園への散歩なども実施している。	初詣や花見、七夕祭り、紅葉と季節を感じる外出は年間行事として出かけている。秋保の里センターや足湯に行き蕎麦を食べるのを楽しみにしている。日常的にはホーム周辺の散歩、買い物、ベランダでお茶のみや日光浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて一緒に買い物に行ったりスタッフが代わりに購入してくる場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に応じた飾りつけや、利用者の作品などをユニット内に展示し誰もが楽しめる空間を作っている。また、安全に利用できるように家具の配置を考えている。	リビングは明るくゆったりとし、空気に澁みはなく、温湿度は適切である。壁に習字の作品、保育園児の吊り飾り、中学生からの手紙が飾られ温かい雰囲気である。小正月のだんご刺しが季節を感じる。入居者は各ユニットを行き来し、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などところどころに椅子やソファを置いてくつろげる空間を作り利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真を飾り、居心地の良い場所を作っている。	入口に職員と作った表札が掛けてある。使い慣れたタンス、椅子、テーブル等の家具が使い易く配置されてある。家族の写真、自作の習字等を飾り、テレビ、本やぬいぐるみを置き居心地良い自分の部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示をわかりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		